

地方都市室蘭における町内会館の役割とその現状

町内会館 地方都市 室蘭市
高齢者

正会員 ○加賀谷仙一*
正会員 真境名達哉 2**

1. 研究の背景と目的見出し

これまで町内会館は地域住民の最も身近なコミュニティ施設として多様に利用されてきた。町内会館は「知恵を出し合い、力を合わせる場となる施設」と浅野が指摘するように¹⁾、例えば地域の防犯や環境保全など行政が十分に対処できない課題を話し合う場や協力して葬式を行う場所としての役割は重要である。しかし、寒冷地(北海道)では冬季利用制限から施設が閉鎖的になりがちであり、札幌市の町内会館などは地域住民の一部利用に留まるなど、ほとんど利用がされていない状況がある²⁾。一方で、町内会館は市の説明会などにも一部利用されている現状もある³⁾。

本研究では地方都市である室蘭市を対象に町内会館の利用者と利用の実態を捉え、建設のきっかけと現在の利用に違いがあるのか現状を把握する。さらに、新たな可能性として新しい利用が行われているのかを考察する。

2. 研究の方法

研究の構成および方法は図1に示す。町内会館の概況を把握するために室蘭市内の町内会館に対してアンケート調査を行った(図1)。その概要は町内会活動の実態、町内会館の基本属性・利用の実態、建設時の意識と現状の利用に関する意識の比較、運営における収支や維持費・補修についてである(3章)。また、6館をヒアリング調査し部屋の利用状況や、利用に関して重要な空間を把握することで新しい利用があるのかを考察する(4章)。

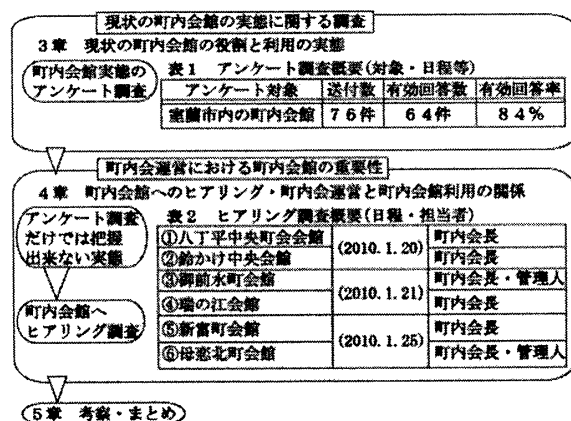


図1 研究のフロー

3. 現状の町内会館の実態調査

3.1 町内会館の基本属性

建物の延床面積は平均 211 m²であり、(延床面積の分布は図2に示す。)延床面積は年々減少している(図3)。会館は概ね大集会室、小会議室、キッチンで構成されており、44%が事務室を保有していた(図4)。大集会室については和室よりも洋室の方が多く(68%)、多目的に利用できるように洋室が好まれている。会館一体型の物置では外からも使用できるプランもあり(26%)、外部活動への利便性がみられる(図5)。駐車場は半数の会館が所有しており、平均駐車台数は11台である^{注1)}。

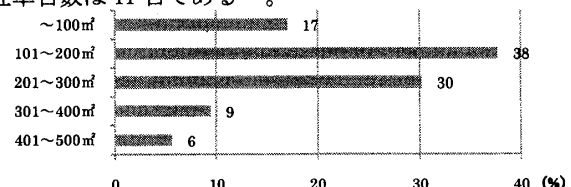


図2 町内会館の延床面積 (N=53)

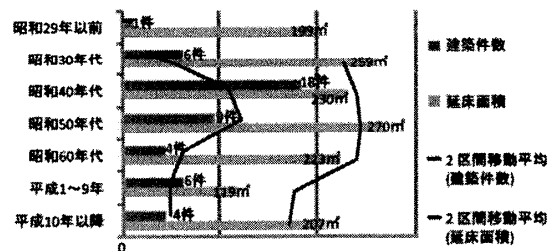


図3 年代別の建築件数と延床面積 (N=48)

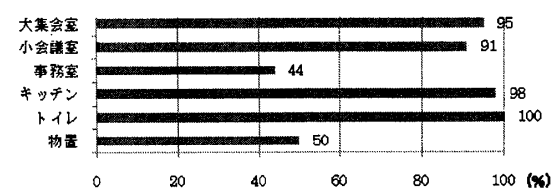


図4 町内会館の部屋構成 (N=64)

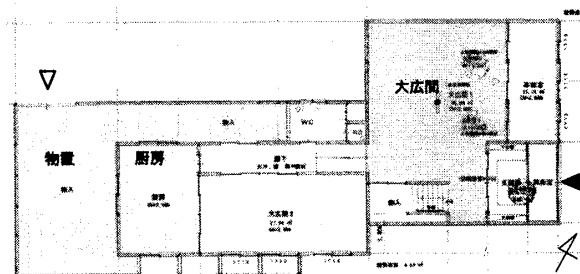


図5 物置の大きなプラン(絵鞆町会館 S=1:300)

3. 2 町内会館の運営と利用の実態

室蘭市の町内会館は年齢が 50~70 代を中心に運営・利用をしているが(図 6)、町内会活動では防犯灯設置管理やパトロール活動などもしっかりと行われている。会館建設のきっかけの一つであった葬式利用(図 7)は現在では減ったという回答が多く(70%)、他の会館利用件数の増減をみても約 4 割が建設当時に比べ減少している(図 8)。会館利用の活動(N=50)では会議などの他に老人クラブ(70%)やカラオケ(66%)など趣味・娯楽としての利用が多く(表 1)、市の活動では介護予防事業などに会館が利用されている。

町内会館の管理と利用における^{注2}お困りでは「維持・管理費(53%)」が一番多く、「キッチンが狭い」という回答もある(表 2)。特に、暖房のお困りを尋ねると「会館の使用前に暖房をつけに行かなければならない(60%)」、「使用中に部屋がすぐに暖まらない(41%)」などの回答がみられた。

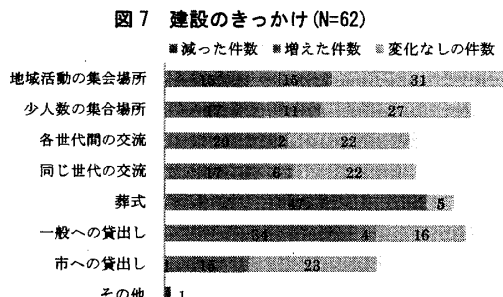
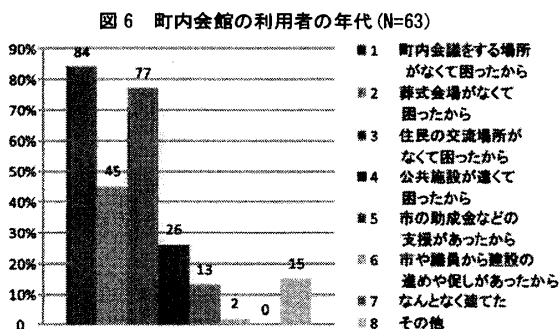
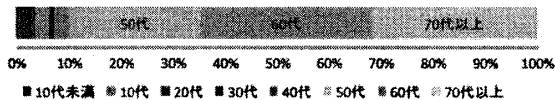


表 1 会館利用の活動

1位 (92%)	役員会
2位 (80%)	町内会議
3位 (74%)	婦人会
4位 (70%)	老人クラブ
5位 (66%)	カラオケ
6位 (60%)	祭り
7位 (34%)	青少年育成会
8位 (32%)	子供会
9位 (28%)	市の各種説明会
10位 (26%)	お茶会

表 2 管理・利用のお困り

1位 (53%)	維持・管理費
2位 (49%)	雪の処理
3位 (24%)	駐車場がない
4位 (20%)	暑さ・寒さが気になる
5位 (19%)	段差が不便
	トイレが狭い
	キッチンが狭い
	玄関の開け閉め

4. 町内会館へのヒアリング

アンケートより明らかになった利用件数の減少や、管理・利用の現状に対し実態調査およびヒアリング調査(図 1)を行った。暖房利用では利用の約 1~2 時間前から複数台使用し部屋を暖めていることや、会館によっては使用していない部屋があった^{注3}。しかし、キッチンには広さが求められており、これは他の地域団体と連携し独居老人のための昼食会が行われているからである^{注4}。

実態調査より、現在では一部の部屋が荷物置場化しており部屋数は少なくとも良いと思われる。ヒアリングでも「大広間と小部屋」の 2 部屋あれば十分との回答もある。新しい利用では他の地域団体と連携した利用があることで昼食会を通し交流を増やす機会があるなど良い面もみられた(図 9)。

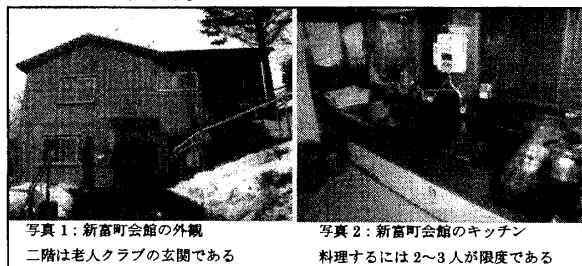


図 9 町内会館の写真

5. まとめ

町内会館の建設は昭和 40~50 年代に多く、その件数と規模は年々減少している。そして、葬式の利用は現在ほとんどなく全体の利用状況も減少しているが、町内会議や地域活動の利用もあり、町内会の拠点としてまだその役割を果たしているようだ。だが、利用の多くは高齢者の老人クラブやカラオケ利用から趣味・娯楽の場と化している現状もある。その他では現在、行政や他の地域団体による高齢者を対象とした新たな利用も見られた。現状の課題は会館利用者のほとんどが高齢者であり、維持・管理費に困る会館が多いので老朽化や会館存続への対処方法などが考えられる。今後は利用する部屋の縮小が考えられる一方で、キッチンは昼食会に関連し拡大の需要もあることからプランの見直しなども考えられる。

注記・参考文献

- 注 1 町内会館は徒歩圏内にあるので基本的に駐車場の重要性は低い。
- 注 2 管理と利用のお困りについての N はそれぞれ N=43、N=41 である。
- 注 3 消防法より会館によっては一部の部屋利用(集会所)をやめている。
- 注 4 室蘭市社会福祉協議会の地区福祉協議会：全 12 がそれぞれ計画を立て平成元年から実行。平成 20 年までは 21 件の町内会館で実施。
- 1) 浅野平八：地域集会施設の計画と設計、理工学社、1995 年出版
- 2) 鴨川木綿子、野口孝博：住宅地における小規模コミュニティ施設の利用実態とそのあり方 - 札幌市内の町内会館を事例として -、日本建築学会技術報告集、第 22 号、P. 395、2005 年 12 月
- 3) 室蘭市連合町会協議会、室蘭市民活動推進課：町内会・自治会に関するアンケート調査結果報告書、2008 年 12 月

* 室蘭工業大学大学院工学研究科 博士課程前期

* Graduate Student, Department of Civil Engineering and Architecture, Muroran Institute of Technology, Graduate School of Eng

** 室蘭工業大学くらし環境系領域 講師

** Lecturer, College of Environmental Technology, Muroran Institute of Technology